

いじめ通信 7・8月合併号

子供が「いじめ」を訴えてきたら

「よく話してくれたね」など、勇気を出して打ち明けてくれたことを認めましょう

業平小学校では毎月 10 日の「すみだいじめ防止の日」の前後に、「いじめ通信」を発行しています。今回は子供が「いじめ」を訴えてきたとき、「いじめ」をしていることが分かったときのことについてです。

まずは、子供の話に傾聴し、共感しましょう

子供がいじめを訴えてきたときには、じっくりと子供の話聴き、子供の気持ちを受け止めて、子供に「話を聞いてもらえた」という安心感をもたせてください。

子供が「いじめ」を訴えてきたら…（順不同）

- 子供のつらい気持ちを親身になって受け止める。
- いじめられることは、決して恥ずかしいことではないことを伝える。
- 子供が家庭にとってかけがえのない存在であること、どんなことがあっても必ず守り抜くことを伝える。
- 子供の願いを受け止め、今後の解決に向けた方法を一緒に考える。

一方で、「公正な判断をしたい」「強くあって欲しい」という親心から、ついつい言ってしまいがちな NG フレーズもあります。

「いじめ」を訴えてきた子供への NG フレーズ（例）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ○ あなたも、何かしたんじゃないの？ | ○ 「やめて」って、直接言えばいいじゃない。 |
| ○ それくらい、よくあることだ。 | ○ いじめなんかに負けるな。 |
| ○ あなたの勘違いなんじゃないの？ | ○ そんな子とはつき合わなければいい。 |

このような言葉を言われてしまうと、子供は、「大人に相談しても、逆に否定されるだけだ」と感じ、つらい気持ちを誰にも話すことができなくなる可能性があります。そうすると、一人で追い込まれてしまい、深い心の傷を負ってしまうこともあります。そうならないためにも、子供がいじめを訴えてきたときには、まず何よりも、「あなたのつらい気持ちを本気で理解したい」という姿勢をしっかりと示してあげてください。その際には、次のことを大切にしてください。

いじめの内容を無理に聞き出そうとせず、「話せることから話してくれるかな。」など、子供が思いを十分に打ち明けられるようにしましょう。

裏面もあります。

子供が「いじめ」をしてしまったら ～これからできることを、一緒に考えましょう～

ある日、担任から、「お子さんがいじめをしてしまいして…」と伝えられ、ショックを受けない方はいないと思います。もしかしたら、「育て方のせいで…」等と自責の念にかられることもあるかもしれません。しかし、文部科学省の「いじめ防止等のための基本的な方針」にも、

いじめは、どの子供にも、どの学校でも、起こりうるものである。

と明記されていることから、**全ての子供が、いじめられる側・いじめる側のどちらにでもなる可能性**があるといえます。そのことを踏まえた上で、もし、子供がいじめる側になってしまったときには、次のような対応をお願いいたします。

子供が「いじめ」をしていると分かったら…（順不同）

- いじめていることを認めた場合は、その勇気をしっかり受け止める。
- いじめられた子のつらい気持ちを理解させ、いじめが絶対に許されない行為であることを毅然とした態度で伝える。
- いじめをしてしまった心理的背景として、ストレスや不満、劣等感等がある場合には、そのつらい気持ちを受け止めて、十分に話を聞き、解決のための方法を一緒に考えていく。
- 今後どうしたらよいのか、どうしていきたいのかを話し合い、そのために「みんなで支えてあげる」という意思を伝える。

子供がいじめを訴えてきたとき、または、いじめをしていると分かったときには、直ちに学校へ連絡します。

学校の教職員、地方公共団体の職員その他の児童等からの相談に応じる者及び児童等の保護者は、児童等からいじめに係る相談を受けた場合において、いじめの事実があると思われるときは、いじめを受けたと思われる児童等が在籍する学校への通報その他の適切な措置を講ずるものとする。【いじめ防止対策推進法 第23条 第1項】*下線部は東海林による。

いじめの事実があったときに、周囲の大人が協力して対応をすることは、いじめられた子供はもちろん、いじめた側の子供（たち）を救うことにもつながります。業平小学校ではこれからも、子供たちを、より多くの大人の「手」と「目」で見守って参ります。そのためには、**保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力がぜひとも必要です。**今後とも、「どうやったらこの子供たちを守れる（救える）のか」という観点で、共に相談しながら、いじめ問題に対応していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

（業平小学校いじめ防止対策担当：東海林）

支える「手」、包み込む「目」で、見守ろう